日本調剤 | 株式会社日本医薬総合研究所

News Release

2026 年 10 月 21 日

日本調剤グループの日本医薬総合研究所、CML 患者の「副作用による QOL 低下」からくる「アドヒアランスの低下」の課題解決についての患者調査に協力

～10 月 31 日開催の慢性骨髄性白血病（CML）患者さま・ご家族のためのフォーラムで発表～

日本調剤株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：小城 和紀）のグループ会社である株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都港区、代表取締役社長：橋爪 敦弘）は、東京大学医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター公共政策研究分野（研究代表者：河田純一）および神戸大学（共同研究者：伊藤ゆり）とともに、慢性骨髄性白血病（CML）患者・家族の会 いずみの会（代表：小林 竜太郎、以下「CML 患者・家族の会 いずみの会」）の協力のもと実施した、CML 患者の「副作用による QOL 低下」からくる「アドヒアランスの低下」の課題解決についての患者調査を実施しました。

詳細については 10 月 31 日開催の慢性骨髄性白血病（CML）患者さま・ご家族のためのフォーラムで発表の予定です。

■背景

CML の予後はチロシンキナーゼ阻害薬（TKI）により飛躍的に改善し、治療目標は深い分子遺伝学的寛解（DMR）の維持や QOL の改善へ移行し、一部の患者では無治療寛解維持（TFR）の達成も加わっている。

■課題

一方でいまだ多くの患者で生涯にわたる治療継続が求められ、長期服薬等に伴う QOL 低下が課題となっている。

加えて、高額な薬剤費の長期負担による「経済毒性」も深刻である。今日の CML 患者は、「副作用等による QOL 低下」と「長期的な経済的負担」の二重の課題に直面しており、これらは服薬アドヒアランス低下の要因となり得る。したがって、患者の困難を明確に把握し、適切な支援を行うことが急務である。

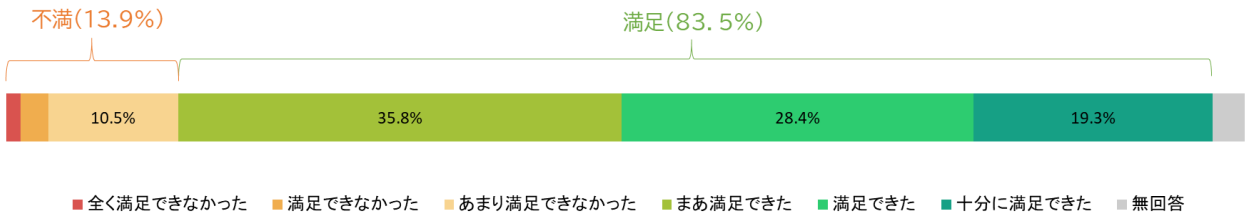
■患者調査の結果（一部抜粋）

・医師による説明への満足度は高い（83.5% ※中間速報値）、一方で、「目標共有」に課題

医師の説明に約 8 割（83.5% ※中間速報値）が「満足」と回答した一方、TFR の可能性や長期的な人生設計に合わせた治療目標が、患者・医師間で十分に話し合われていないことが明らかになった。

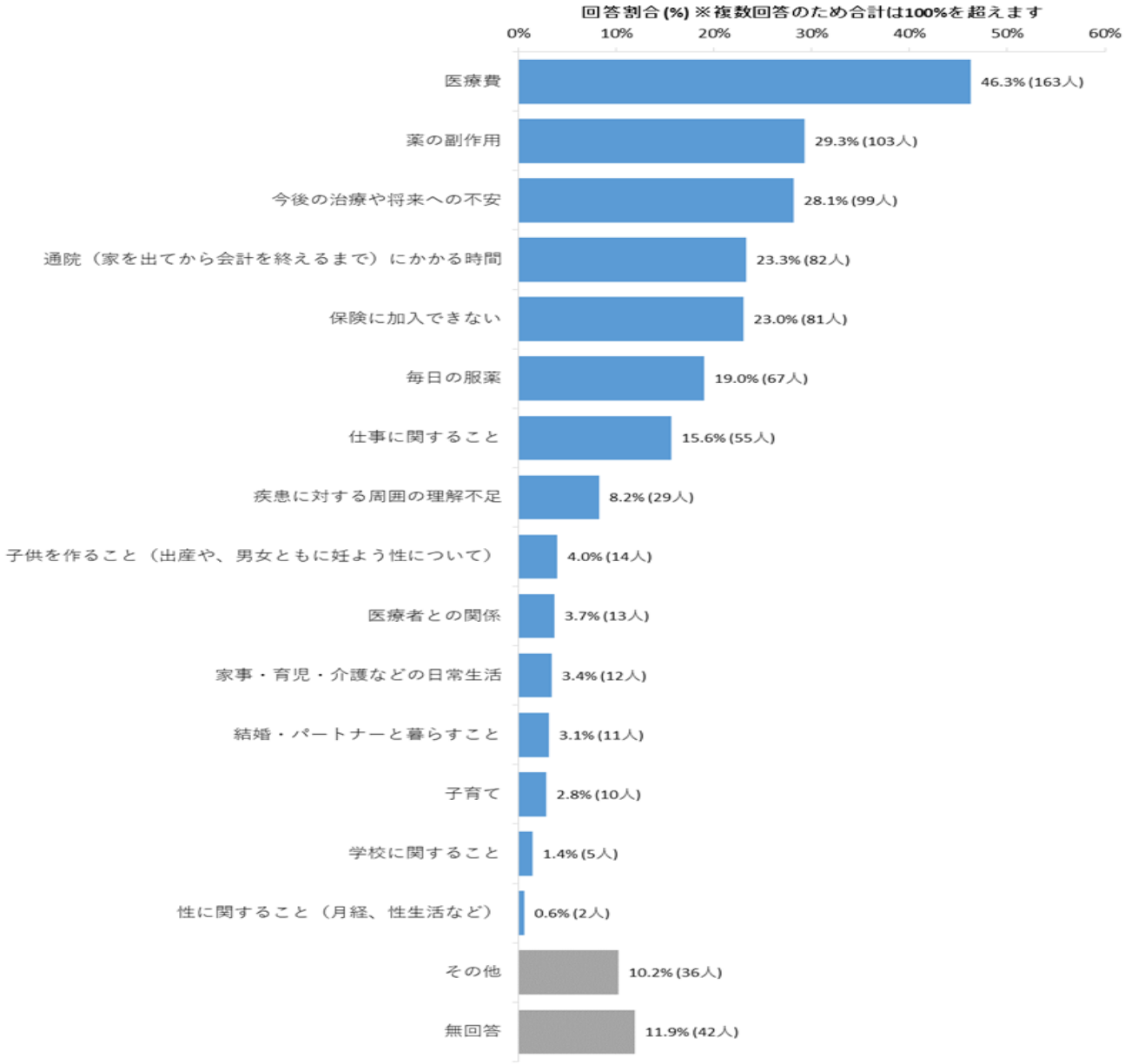
※本プレスリリースに掲載された調査結果は、調査実施期間（9 月 1 日～30 日）のうち、9 月 18 日までに回収した回答（352 件）を集計したデータに基づいており、調査の最終的な結果とは異なります。

問：医師から受けた説明に対する満足度として当てはまるものをお知らせください。



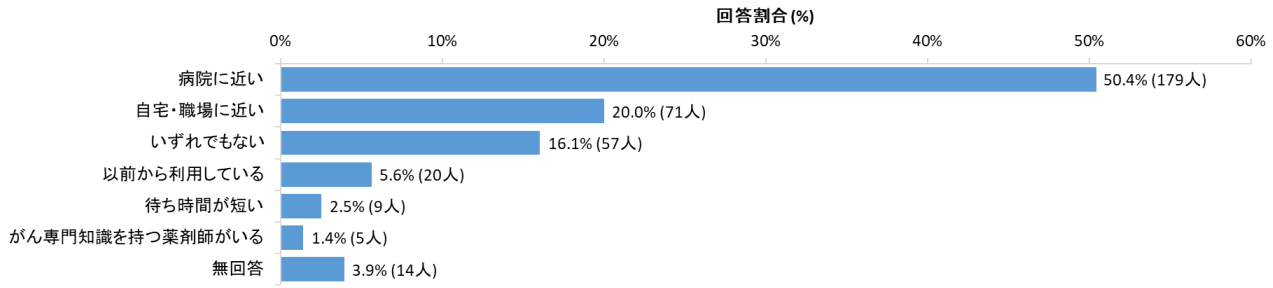
・困りごとは「医療費」が最も多く、「薬の副作用」を上回る

問：日常生活をされるうえで、現在、不便を感じたり、お困りになっていること（複数回答可）



・薬局を選ぶ基準は病院や自宅や職場から近いからが多く、がん専門知識を持つ薬剤師がいるから選ぶケースは稀である。一方で、薬剤師にサポートを求める声は多い

問：現在、CML の治療で主に利用している薬局を選んだ最大の理由



■調査中間速報概要
・集計期間：2026 年 9 月 1 日～9 月 18 日　※調査は 9 月 30 日まで実施
・回答数：352
・平均年齢：68.5 歳
・調査方法：Web、郵送アンケート
・対象者：慢性骨髄性白血病患者・家族の会「いずみの会」の会員および、資料発送や調査のために住所を登録している CML 患者・家族、オンラインで回答されたCML患者・家族、日本調剤に来局されたCML 患者のうち同意を頂いた方。
・調査協力：慢性骨髄性白血病患者・家族の会いずみの会
・研究実施者：河田純一　東京大学医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター公共政策研究分野　特任研究員（研究代表者）
伊藤ゆり　神戸大学大学院医学系研究科未来社会医学専攻/医療健康政策学講座　教授
馬場克典　株式会社 日本医薬総合研究所
・集計：株式会社 日本医薬総合研究所

フォーラムの詳細につきましては下記をご参照ください。
https://www.qlife.jp/cml_2026/nicho_leaf/

本ニュースリリースに関するお問い合わせ先
日本調剤株式会社　広報部 TEL：03-6810-0826　MAIL：pr-info@nicho.co.jp　HP：https://www.nicho.co.jp/